

アデニウムの育て方

Adenium

キョウチクトウ科 / Apocynaceae

砂漠のバラの名で知られるキョウチクトウ科のコーデックス。肥大した塊根と鮮烈な花が魅力で、発芽が容易な実生入門にも最適なSEEDSTOCK人気の属です。

基本データ

🌱 成長期	夏型（春～秋生育、冬は落葉して休眠）
🌡 耐寒温度	最低10℃が目安（霜厳禁・低温に弱い）
☀ 日照	日なた（強い日照・高温を好む）
📅 播種適期	5～8月（高温期。加温があれば年中）
🕒 発芽日数	25～35℃で3～14日（鮮度が重要）
📍 主原産地	アフリカ～アラビア半島の乾燥地
📏 難易度	

🌱 概要・魅力

アデニウムは、アフリカのサヘル地帯（セネガル～スーダン～ケニア）から東アフリカ・アラビア半島にかけての乾燥地に自生するキョウチクトウ科の塊根植物です。代表種のアデニウム・オベスム（*Adenium obesum*）は「砂漠のバラ」の名で広く知られ、地際から大きく肥大した塊根（幹）と、鮮やかなピンク・赤・白の花が美しいコントラストを生み出します。コーデックス（塊根植物）の中でも最も華やかな花を咲かせる属のひとつで、初心者から上級者まで幅広く親しまれている人気の属です。

分類上の近縁属としてパキポディウム（*Pachypodium*）が知られており、ともにキョウチクトウ科（Apocynaceae）に属します。属内の種数については「1種のみとする見解」から「9種以上に分ける見解」まで幅があり、Kew POWO（Plants of the World Online）は6種を承認種として登録しています。A. arabicum・A. somalenseなどをA. obesumの亜種として扱う資料も多く、分類は現在も議論が続いています。

最大の魅力は、肥大した塊根と枝の造形美にあります。自然の力で形作られた個性的なシルエットは「生ける彫刻」とも称されます。実生（種まき）から育てると、発芽後わずか数ヶ月で塊根のふくらみが目に見えて進み、年を追うごとに唯一無二の樹形が育ちます。タイでは長年にわたって品種改良が進められており、八重咲きや複色など多彩な大輪品種が接ぎ木苗として日本市場にも流通しています。一方、SEEDSTOCKで取り扱う実生種子からは、接ぎ木苗では得られない自根由来の塊根美を発芽直後から手元で育て上げることができます。

- **A. obesum（砂漠のバラ）**：属の代表種。サハラ以南アフリカからアラビア半島にかけて広く分布。ピンク～赤の花をつけ、最も流通量が多い。

- **A. arabicum（アラビクム）**：アラビア半島（サウジアラビア・イエメン）原産。より樹木状に育ち、塊根の迫力は属内随一ともいわれる。
- **A. multiflorum（マルチフローラム）**：南部アフリカ（モザンビーク等）原産。落葉後に花をつける独特の習性を持ち、コレクター人気が高い。
- **A. socotranum**：アラビア海のソコトラ島固有種。野生では巨大な幹に育つ希少種。
- **A. swazicum**：エスワティニ・南アフリカ原産の小型種。
- **A. oleifolium**：南アフリカ・ボツワナ原産の低木状の種。

実生から塊根の肥大を楽しみたい方に、アデニウムは最初の一属として強くおすすめできます。発芽しやすく成長が比較的最初のため、コーデックス栽培の手応えを早い段階で感じられるのも選ばれる理由です。

アデニウムの全草（特に樹液・根・種子・果実）には強心配糖体（カードノライド）類が含まれており毒性があります。剪定・植替え時に出る乳白色の樹液は皮膚や粘膜に触れさせないように、作業時は手袋を着用してください。作業後は手をよく洗い、子どもやペットの誤食にも十分に注意してください。

☀ 置き場所

アデニウムは強い日照と高温を好む夏型のコーデックスです。日照が足りないと枝が徒長して間延びし、花付きも悪くなります。また、他の多くのコーデックス類に比べて耐寒性が著しく低く、霜に当たると致命的なダメージを受けます。季節に合わ

せた置き場所の移動が、長く健全に育てるための最重要ポイントです。

春（3～5月）

新芽が動き始めたら、日当たりのよい戸外に出します。寒の戻りに注意し、最低気温が10℃を下回る夜は室内に入れましょう。春先は急な強光で葉焼けが起きることもあるため、最初の数日は半日陰から慣らすと安心です。

夏（6～9月）

生育のピーク。直射日光がたっぷり当たる屋外の南向きが理想です。日照時間は6時間以上を確保できると塊根の肥大と開花が促されます。蒸れには弱いので、風通しのよい場所を選びましょう。梅雨期の長雨が続く際は雨の当たらない場所に移すか、水はけのよい管理を心がけます。

秋（10～11月）

気温が低下するとともに落葉が始まります。夜温が10℃を下回り始めたら早めに室内へ取り込みましょう。この時期の取り込みが遅れると低温障害のリスクが高まります。秋の水やりも徐々に減らし始めます。

冬（11～3月）

落葉・休眠中は室内の日当たりのよい窓辺（南向き）に置きます。最低気温10℃以上を維持できる場所が理想で、5℃以下になると枝先から低温障害が進行するリスクがあります。暖房の温風や窓からの冷気が直接当たる場所は避け、ガラス越しでも日光を確保します。

アデニウムの耐寒性はパキポディウムなど他のコーデックスより全般に低く、秋の取り込みは他の植物より早めに判断することが重要です。霜に一度でも当たると枝が黒変・枯死し、塊根まで影響が及ぶことがあります。

水やり

アデニウムは生育期には十分な水を必要とし、休眠期には基本断水するメリハリが肝心です。塊根の肥大には夏の十分な水やりと強い日照が欠かせません。一方、冬の低温期に水を与えることが根腐れ・軟腐病の最大の原因となるため、季節による管理の切り替えを的確に行うことが重要です。

生育期（春～秋：おおむね4～10月）

土が完全に乾いたことを確認してから、鉢底から水が流れ出るまでたっぷりと与えます。受け皿に溜まった水は必ず捨ててください。夏の盛りは乾きが速く、3日に1回程度の頻度が目安になることもあります。「水が少なすぎて塊根が太らない」というケースも少なくないため、生育期は乾かしすぎに注意しましょう。春の生育再開時は少量から始め、気温の上昇とともに徐々に量・頻度を増やします。秋は逆に、気温低下に合わせて徐々に控えていきます。

休眠期（冬：落葉・休眠後）

落葉が進み休眠に入ったら基本的に断水します。暖かい室内（15℃前後を維持できる場合）では月1～2回、コップ一杯程度のごく少量を与えるにとどめます。冬に水を与えず、春先に根腐れ・軟腐れで株を失うのがアデニウム栽培で最も多い失敗パターンです。塊根に著しいシワが出てきた場合のみ、暖かい日中に少量与えてください。乾燥して休眠させる状態が、アデニウムにとっては最も安全な越冬の形です。

肥料

生育期（5～9月）に緩効性化成肥料または薄めた液肥を月1～2回施します。多肥は徒長と根の傷みを招くため、控えめが基本です。秋以降は与えません。

「冬に断水して春を待つ」がアデニウムの鉄則です。低温と多湿の組み合わせが根腐れの直接原因となります。迷ったときは与えずに待つことが、株を守る最善策です。

用土・植替え

アデニウムには排水性の高い用土が不可欠です。水はけの悪い用土は根腐れ・軟腐病の温床となります。一般的な草花用培養土はピートモスが多く水持ちがよすぎるため、単独での使用は避けましょう。

用土の配合例

- 標準配合：赤玉土（小粒）3：軽石（小粒）3：鹿沼土（小粒）2：腐葉土2。排水と保水のバランスが取れた汎用配合です。
- 根腐れ対策を重視する場合：軽石4：赤玉土2：鹿沼土2：日向土2。ほぼ無機質で、過湿になりにくい配合です。
- 実生苗用（発芽～1年目）：赤玉土（細粒）4：鹿沼土（細粒）3：軽石2：バーミキュライト1。細粒で根が張りやすく、清潔な無機質配合が病気を防ぎます。

鉢の選び方

素焼き鉢が排水・通気に優れておすすめです。塊根を張り出させて観賞するために浅めの広口鉢も人気があります。深い鉢は下部の用土が乾きにくく根腐れリスクが高まるため、適度な深さのものを選びましょう。鉢底には大粒の軽石を敷くと排水が向上します。

植替えの時期と方法

適期は4～6月（気温が十分上がってから）です。猛暑日や冬は避けましょう。1～2年に1回を目安に、根詰まりや用土の劣化を解消します。植替え時には塊根・根首を土面より上に出して植えると、根腐れ防止と観賞価値の向上につながります。植替え後は直射日光を避けた半日陰で数日置き、傷口が落ち着いてから水やりを再開します。なお、剪定や植替えの際に出る樹液は有毒なため、作業時は必ず手袋を着用してください。

接ぎ木苗（タイ産の園芸品種に多い）は台木の根を持つため、塊根の個性は実生株とは異なります。実生株は自根から塊根が発達するため、長期で独自の形に育てる醍醐味があります。

🌱 発芽のさせ方

アデニウムの実生は、コーデックス類の中でも特に発芽が容易な部類に入ります。硬実種子のように前処理（スカリフィケーション）は基本的に不要で、高温と適切な湿度さえ確保できれば3～5日という驚くほど短期間で発芽します。ブラジルで行われた査読研究（Ciência Rural誌）でも、30～35℃での最終発芽率は84～94%と高いことが確認されています。ただし、アデニウムの種子には特有の弱点があります。それが「鮮度」です。

採取・入荷後の時間が経過するほど発芽率・発芽速度が急激に低下します。おおむね採取後6ヶ月以内の種子が最も発芽率が高く、1～2年以上経過した古い種子は発芽しないことも珍しくありません。SEEDSTOCKでは種子の鮮度管理を徹底していますが、購入後はできるだけ早い播種をおすすめします。播種の適期は5～8月の高温期です（加温設備があれば年中可能）。

播種の手順

1. **用土を準備して殺菌する**：赤玉土（細粒）とパーミキュライトを混ぜた無機質中心の清潔な用土をトレーや浅鉢に入れ、熱湯消毒または電子レンジで加熱殺菌します。カビが発生すると種子が腐敗するため、用土の清潔さが発芽率を大きく左右します。古土の使い回しは避けましょう。
2. **種子を水に浸す（任意・推奨）**：播種前に種子を30～40℃程度のぬるま湯に2～4時間浸しておくと吸水が促進されます。殺菌剤（ベンレート水和剤1,000倍液など）を混ぜると防カビ効果が高まります。アデニウムにはスカリフィケーション（種皮への物理的な傷つけ）は不要です。
3. **種子を置く**：湿らせた用土の表面に種子が重ならないように並べます。種子は横向き（水平）に置きます。種子同士の間隔を2～3cm程度確保すると、発芽後の管理が楽になります。
4. **覆土はしないか、ごく薄く**：覆土はしないか、種子が隠れる程度の薄い覆土（2～3mm以内）にとどめます。軽く指で押さえて用土と密着させると発芽が安定します。
5. **高温・高湿度を保つ**：発芽適温は25～35℃（最適は30～35℃）です。透明な蓋やラップで容器を覆い、高湿度（90%以上）を維持します。温度計で管理温度を確認し、不安定な時期はヒーターマットを活用しましょう。強い直射日光は避け、明るい半日陰に置きます。
6. **腰水で水分を補給する**：容器の底まで水を張った受け皿に載せる腰水（底面給水）で、用土が乾かないように管理します。腰水の水は清潔に保ち、定期的に入れ替えましょう。
7. **発芽を確認する**：鮮度のよい種子が高温条件下にあれば3～5日で発芽が始まります。標準的には7～14日が目安

です。温度が低い・種子が古いと2～4週間かかることもあります。3週間以上経過しても発芽がない場合は種子の鮮度や管理温度を再確認しましょう。

8. **発芽後は徐々に通気を確保する**：発芽が揃ったら、ラップや蓋を少しずつ外して外気に慣らしめます。一気に乾燥した環境に晒すと幼苗が萎れるため、段階的に移行します。腰水は本葉が展開するまで続け、土が乾かないように管理します。
9. **日光に慣らす**：発芽直後は強い直射を避け、明るい半日陰から管理を始めます。本葉が展開してきたら徐々に日光に当てる時間を増やしていきます。日照が確保できると塊根の肥大が始まる様子を早くから楽しめます。
10. **最初の鉢上げ**：本葉がしっかり展開し、根がトレーに広がってきたら個別の鉢に植え替えます。この時期から通常の成株に近い管理（乾かしてからたっぷり）へ移行します。

実生苗の最初の冬は、成株と同様の完全断水は行わず、暖かい室内で少量の水やりを継続して管理します。幼苗のうちから塊根が少しずつ太っていく変化は、実生ならではの醍醐味です。鮮度の高い種子があれば、アデニウムの実生は初めての方でも十分に成功できます。

🐛 病害虫・トラブル

アデニウムで最も多いトラブルは過湿による根腐れです。特に冬の低温期に水を与えることで起きる根腐れ・軟腐病で株を失うケースが多く、この一点を押さえるだけで栽培難易度は大きく下がります。害虫は梅雨明け以降の高温期に発生しやすくなります。

害虫

- **カイガラムシ**：葉の付け根や莖に白い綿状の塊をつくり吸汁します。歯ブラシや綿棒で物理除去し、殺虫剤（気門封鎖系）を散布して対処します。冬の取り込み前に株全体を確認する習慣をつけましょう。
- **ハダニ**：高温乾燥期に葉裏に発生し、葉が白っぽく変色します。殺ダニ剤をローテーションで散布し、シャワーで葉裏を洗い流すことが予防にも有効です。
- **アブラムシ**：新芽や蕾に集中して吸汁します。市販の殺虫剤で早めに対処します。
- **オレアンダースズメガ（Daphnis nerii）の幼虫**：キョウチクトウ科植物を宿主とする大型のスズメガの幼虫で、葉を大量に食害し、短期間で株を丸裸にすることもあります。見つけ次第手で除去（手袋着用）し、BT剤（バチルス・チューリンゲンシス）を夕方に散布する方法も有効です。

病気・生育トラブル

- **根腐れ**：過湿・低温多湿が原因。塊根基部や根が黒変・軟化します。傷んだ部分を完全に取り除き、切り口を1週間以上乾燥させてから清潔な用土に再植えします。

- **軟腐病（細菌性）**：剪定や傷口から細菌が侵入し急激に軟化・腐敗します。感染部位を除去し、切り口を乾燥させ、風通しを改善します。
- **炭疽病**：多湿・長雨時に発生しやすく、葉に褐色～黄色の病斑が出ます。罹患葉を除去し、排水改善・殺菌剤の散布で対処します。
- **低温障害**：5℃以下・霜で枝先が黒変し、進行すると塊根まで達します。霜に一度でも当たると致命的です。秋の早めの取り込みが最大の予防策です。
- **徒長**：日照不足で枝が細長く間延びします。強光の場所に移し、水やりを控えます。

剪定・植替え時に出る乳白色の樹液には**強心配糖体（カーデノライド）類**が含まれ毒性があります。作業時は必ず手袋を着用し、切り口に触れた手で目や口に触れないよう注意してください。

栽培メモ



アデニウムの種子を探す
QRを読み取る／seedstock.jp